

水俣病の実態を取材

スウェーデンの雑誌記者

スウェーデンの週刊雑誌記者グ
ンナーソン氏(三〇)が二十五日から
二十六日にかけて、水俣病患者をた
ずね水俣病の実態を取材した。

同氏は日本人妻の浩江・グンナ
ーソンさん(三〇)北九州市若松区
出身と一緒に九月十七日に日本
にやってきて、まず新潟県阿賀野
川の水銀中毒の実態を取材したあ
と本家の水俣市を訪れたもの。

二十五日は患者のいる湯の尻リ
ハビリテーションセンターで重症
患者や医療の問題などを聞き、二
十六日は発生中心地の月の浦、湯
堂、茂道一带を回り、自宅療養し
ている患者や死亡家庭の遺族など

をたずね、相当突っ込んだ質問を
しながら取材に当たっていた。
同氏の話によると「現在スウェ
ーデンでも有機水銀中毒に似た患
者が出ており、水俣病問題を公害

問題として究明するため、実態や
いろんな問題点を追究してゆくつ
もりだ」と言っていた。
同氏の記事は水俣病を中心とし
た日本の公害キャンペーンとして
週刊雑誌「セー」(英語でルッ
ク)に掲載されることになつてい
る。



現地取材をするグンナーソ
ン記者と浩江さん(水俣市
月の浦で)